

三原市立沼田東小学校

親和性のある学習集団づくりはこれ！

(1) 温かい教職員集団が温かい学校、学級をつくる！

- ☆「笑い合えるチーム沼田東」をスローガンに
「みんなで支え合い、みんなで育てる」という意識を持つ。
- ☆職員室でのたわいもない会話を大切に
授業づくり、学級づくり、生徒指導の解決方法のヒントがある。

(2) 全教職員での支援と見守り！

- ☆担任のサポートとともに児童にかかわる
朝の会から下校まで管理職を含めあいている教職員が各学級に入る。

(3) 週2回の暮会10分間で児童交流！

- ☆対応策や困り感だけでなく、効果のあった手立てや取組を交流
自分の指導にも活かしていく場とする。

指導力向上につながるのはこれ！

深い教材研究を！

最も大切なことは、教科書を熟読することである。

①教材研究の在り方を工夫

みんなで1つの授業を作り上げていく共同教材研究を行う。

〈パターン1〉様々な会社の教科書を広げて「めあて」作りからともに研究する方法

〈パターン2〉1学年2クラスを活かし隣のクラスで実際に授業をしてもらったり、したりして指導案を見直す方法

②協議会の持ち方を工夫

○授業評価表の活用

主体的に参加するために、自分だったらどんな「めあて」にするのかという代案を考え協議を重ねる。

○振り返りシートの記入

ポートフォリオ形式で「今日の学びを受けて、自分の学級でどのような取組ができるのか」「取り組んだ結果、効果のあった手立てや上手くいかなかった手立て」を記入して、協議会の時に交流し合う時間を設ける。

授業実践はこちら！

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/es-nutahigashi/jyugyokaizen.html>

学習意欲向上と学力定着はこれ！

(1) 音読と範読の徹底！

- ☆音読・・・国語科だけでなく、社会科や理科の教科書を音読する。
- ☆範読・・・支援の必要な児童に内容の意味理解を図る。
- ☆読みを深めていく指導・・・常に教材文に立ち返り、自分の考えの根拠を明確にする。

(2) 5つの視点を大切に！

特に「めあて」と「まとめ」にこだわる授業を！

5つの視点①必然性を感じる問題場面

各教科や総合的な学習の時間、行事や日常生活等、身近な場から問題場面を設定し、児童が学びたいという意欲喚起につなげる。

(具体的な問題場面)

- ・生活科での野菜づくりや秋みつけと関連させて考える場
- ・社会科で学んだ古墳と学校の運動場を比べおよその面積を求める場

5つの視点②「めあて」と「まとめ」の整合性

「めあて」の中に方法、手段を入れることで、思考の方向性が見えるので自力解決の際、解決しようと課題に向かうことができる。

(第4学年「折れ線グラフ」より)

- ×どちらの変わり方が大きいか説明しよう。
- たてじくの1目もりの大きさに着目して、どちらの変わり方が大きいと説明しよう。

「まとめ」では、主語を明確にして、「めあて」や思考過程と関連付ける。また、概念(考え方)と手続き(やり方)、この2つをセットで入れるよう意識する。

(第3学年「分数」より)

- 分数のたし算の計算の仕方は、10分の1のいくつ分で考えれば(考え方)、分子だけをたせばよい(やり方)。

5つの視点③協働学習で学びの確かめ

自力解決した類似問題を解き、最初の全体で得た学びを伝え合う場とする。学びを再確認させることで確実な学力の定着を図るとともに、一人一人の児童に自信を持たせる。

5つの視点④学びを追試する評価問題

目標の観点に沿った評価問題を解く。

【例】計算の仕方(思考・判断・表現)の評価の場合

36+4の計算の仕方を記述

- ①36を30と6に分ける。②6と4を合わせて10
- ③10と30で40と計算の仕方も書く。

5つの視点⑤効果的な教材・教具の作成



第1学年「空き箱を活用して10の合成」

第2学年「九九ビンゴで九九の定着」

全年齢「漢字ビンゴで漢字の定着」

効果のあった実践事例

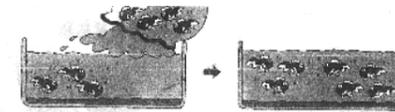
第1学年「ひきざん(2)」より

〈児童の躓き〉

- ・算数科の問題作りでは、加法・減法ともに問いの文が適切に表現できない。

〈問題〉

えをみて、 $3+4=7$ のしきになるおはなしをつくろう。



〈変容前の児童の解答〉
さんびき いました。
そこに 4にんきました。

〈変容後の児童の解答〉

- ①かきが 12こ になっています。
- ②さるが 6こ もちかえりました。
- ③のこりは なんこになりますか。

「3文に分けて描いた対象児童の絵」



〈手立て〉

- 長いスパンを通して
 - ・教師が書いた模範文をなぞる。写す。声に出して読む。
 - ・問題文を3文に分けて提示し、3文目は問いの文になることをパターン化させる。
 - ・児童の好きな食べ物や虫、キャラクター等を登場させた問題を個別に出して取り組ませる。
- 単元を通して
 - ・国語科との関連を図り、「昔話から算数紙芝居を作ろう」という具体的なゴールの設定を行う。
 - ・毎時間場面絵からお話を作る活動を積み重ね、「①既知数 ②既知数 ③問いの文」の3文で問題文を書くことを徹底する。
- 本時を通して

導入の工夫 ①問題提示は一文ずつ。②自力解決の手立てとなる問題を扱う。

解決意欲を引き出す工夫 ①めあての設定の仕方を工夫する。
②児童が生活科で体験した活動をもとにする。

ペア学習の工夫 → 改善点を教え合う「こうしたらいいよ。」

